



グラデーションの私たち

土井 咲子

「私たちはグラデーション、スペクトラムの中にいる」私がタイでの研修の中で一番心に残った言葉だ。初めはその言葉の意味がよく分からなかったけれど、タイで過ごした五日間はその言葉をひしひしと感じ、受け取った日々だったと思う。

例えば学校訪問の時には、みんなで輪になって踊ったりみんなで一緒に歌って盛り上がり、言葉も通じない初めて会う人とここまで一緒に楽しめるのだと知り、すごく嬉しかった。そして、タイではどこにいても優しく温かく私のことを受け入れてくれて、国籍や文化、言葉どんな違いも包み込んでくれるようだった。だからこそタイで過ごした時間はすごく楽しいものになったのだと思う。

また、障がい者の支援センターなどを訪れた時には彼ら自身がすごく楽しそうに笑顔で働いているのを見て、私自身もすごく勇気と元気をもらえたと、そこには健常者との違いなんてなくて、「障がい者」の定義ってなんだろうと疑問に思うぐらいだった。今もまだその答えは見つかっていない。

もちろん私たちは一人一人違う。でも、その違いに明確に線引きをすることはできないし、どんなに違いがあったとしても私はその違いを受け入れ合えるカバーしあえる世の中で生きていきたい。